千春のお正月

でも忙しくて

『春とお正月はせめて足寄で…』ということで、年末、年始の放送番組の録画録音どりをすませて、三十一日の沖縄での「フォークジャンボリー」の出演もことわって、二十九日の夜に帰ってきました。

しかしその前に足寄の自宅にはすでに、「女学生の友」改め「プチセブン」の記者やカメラマンが東京から先着して、千春の帰りを待ちかまえていました。

東京でも札幌でもしょっちゅうマスコミの取材やインタビューをうけていますが、わざわざ足寄の自宅へこられたのは「北海道新聞」「北海タイムス」「朝日新聞」「アサヒグラフ」などでしたが、「プチセブン」の場合は、編集部デスクの戸辺建一郎氏らの一行が二日がかりで千春中心に家族全員（といっても父と母と弟）との対話から、千春の生い立ちやら学校時代の思い出、恋愛観、結婚観からこんごのフォーク歌手としての生き方などを語り合いました。

それに家族との団らん風景から、ローカル新聞づくりの手伝いや集金に出かける千春の活躍？ぶりもカメラにおさめたものでこれらが二月五日発売の「プチセブン」にどのようにとりあげられるのかということです。

その間に引っ切りなしにかかってくる訪問に応対、高校時代のクラスメートがやってくる。大トリの紅白歌合戦より二階の自室でギターの練習、千春だけは中学生時代から欠かさない足寄神社への初もうで。元日と二日はことしからノッキリふえてきた年賀状を一枚々々ジックリ読んでいましたが、夜になるとあつまってきた友達とマージャン。迷惑なのは両親の部の隣人で、徹夜になりそうだと階下へ寝室を移動。

三日にはアタック・ヤングの横山和之さんがくるというので帯広飛行場まで車で出迎えとなり、弟になにか買ってやるというのでついていったところ、千春が車をおりるとファンがむらがってくるので、立派な靴を買ってもらったのは有難いけれどもう兄との同行はコリゴリということ。

横山さんは遊びにきたのではなく、これまで千春の歌曲集が二冊も出まわっていましたが、これらは千春の許可もなく無断で出版、販売されていたので、こんどは正式にSTVパックから歌謡集を出すことになり、これにはフンダンに写真をもり込むことになったもので、それには千春のコンサート風景を撮りまくってきた横山さんのカメラで足寄での千春をとらえるための仕事だったわけです。

おりから連日つめかけてこられるファンを前にしてアタック・ヤン二人衆が応対、かかってくる電話の受話器を両手にしながらサイン書きの二日間で、両人とも早々に帯広空港から札幌へ向いました。

お互いに放送のレギュラー番組をもつ身とあってはゆっくりお正月というわけにはいきません。

新春コンサート

暮には千春のバースデー（誕生日）コンサートとして、北見、岩見沢、小樽、帯広、仙台、山形の各市をまわりましたが、新春には

一月二十二日　滝川市
二十三日　旭川市
二十五日　札幌市
二十六日　函館市
三十日　熊本市
二月　一日　長崎市
二日　北九州市
三日　宮崎市
四日　福岡市

の九か所でコンサートをひらきます。

特に九州では、なにも東京ばかりが芸能の中心ではなく、九州にも立派な歌や踊りがあると自負しているところで、千春が東京指向型でなく北海道のスーパースターといわれてガンバッていることに共感をもたれているそうで、すでにファンクラブもできているほどで、その成果が期待されています。

千春の室

いろいろなご質問を頂きますが、新しい読者もふえた機会に改めてまとめてお答えいたします。

1、生年月日は三十年十二月十六日に足寄で
2、身長は一七〇
3、体重は五二
4、足のサイズは二五、五
5、視力は二、〇―二、〇
6、血液型は〇
7、好きな色はライト・ブルー
8、好きな花はバラ
9、好きな女性のタイプは若尾文子や八千草薫
10、恋人はいません
11、スポーツは野球とバスケット
12、趣味はマージャンとパチンコ
13、お酒はあまりやりません
14、たばこはパクト二十本くらい
15、千春という名は、長男の智広紀が乳児のときに早く亡くなったので、こんどは明るく元気な子に育つようにと、当時国際的スキーヤーとして活躍していた笠谷千春にあやかって父が命名したもので、芸名ではありません
16、家族構成は、父は明で六十二才、ローカル新聞を一人で発行中、かつて朝日新聞記者から楽劇団を主宰して全国を巡演、母は勝代子で五十六才、父との出会いが縁付のできる踊り子であったのでいまでも毎日のように婦人会や青年団や老人クラブへ踊りの指導に、弟の明人は高三で目下大学受験にとりくみ中
17、歌手になったキッカケは、高校を卒業して父の新聞を手伝うために運転免許をとるために北見の叔父の食堂で一年間働いて帰ってきて、フォーク音楽祭全道大会に出たところ、STVの竹田ディレクターに認められて一昨年四月から毎週オンのヤンの「千春のひとりうた」に生放送で出演したのがはじまり

18、足寄の自宅にはいつごろいるのかとのこと―昨年までは週に一回は帰宅できましたが、これからは全放送局の出演もふえ、道内ばかりでなく本州各地でのコンサートがふえてくるので、月に一回か二回程度となります。

読者の室

千春さま、日増しに寒さがつのり、お元気でやっていらっしゃいますか？

最近私の友達は、「ちはるのアクセン、曲はつかりかけて、節が少ないしよ、だからコンサートなんかひかえて、曲づくりにはげめばいいのに…」といってます。

ちはるさまが忙しくなるのはいいことだけど、でもそれで曲づくりが、おろそかにならないかと、心配です。

あたしも一応、フォークグループなどというものに興じってますが、ちはるの曲を参考にして、学んでいるのです。

ですから、よりよい曲を作っていただきたいのです。

ちはるさまの新曲というか、才三弾シングルの「時のいたずら」のことだけど、私の思うには才一に、うたいやすくなったのではないかと思います。

それから時のいたずらはギターとマンドリンの二重奏にしては、どうでしょうか。

オーケストラもいいけどギターとマンドリンだけだと、なんとも親しみやすく感じるのです。

あたしも必死に、マンドリンを演奏しあわせて見たけど、なかなかよかったです。

ぜひコンサートの時、そうしてもらいたいなあ！

生意気ですいません。

あたしもいつかは、しみじみと人の心を打つような歌を作りたいのです。

ちはるさま、がんばって下さい。

さようなら。

（札幌のR・Iさん）

★　★

私は、一番最初に知ったのは、釧路のコンサートの時です。

私はその日から、千春のファンになりました。

あんなに心強るコンサートは、初めてでした。

千春は、「おれは東京ははだにあわない。」といつも言ってましたネ。

私も修学旅行へ行って、千春の言うことは、本当だなあーと思いました。

修学旅行で東京へ行き、私も「東京は住むところではない。」と、つくづく思いました。

やはり、自分の生まれた北海道が、一番です。

私は高校を卒業しても、北海道からは、離れないつもりです。

（釧路のH・Tさん）

★　★

千春がよく口にする「あかぬけて来た」という、言葉あるでしょ。

私、その言葉とてもキライです。

千春は、どんなつもりで使っているのかわからないけど、私にとってその言葉のもつ意味は、〝千春がだんだん、都会の色に染って行く〟ということのように思えるの。（私の受けとり方がヒネているのかナ？）

千春が、北海道を捨てないという事は、充分わかったし、信じてます。

でも、最近の千春の話し方の中で、「本当に千春を信じていいのかな？」って思いたくなるような事がたくさんあります。

その一つが……千春が東京なんかに行ってくると、「あかぬけしたしょ」っていう事。

私にはどうも、〝フォーク〟としては受けとれないのです。

こんな事思ってるの、私だけかな！？。

千春ゴメンネ、こんな事ばっかり書いて。でも私千春がとっても好きだからこんな事書いてしまったの

（釧路のA・Tさん）

主筆の室

○…年末、年始は本来のローカル新聞に追われて誠に勝手ながら休刊させて頂きその分の料金は順送りとなります。

○…写真のご注文やサインなどはおくれていますが、近く発送いたします。

○…こういった状態で千春にふりかかってくる雑件が一日に殺到しているので、これは有難いことですが、これらをスムースに処理するために、一昨年にいったん北見へ嫁いだ千春の姉夫婦菊地冨美光・絵里子に長男の光臣（七カ月）が足寄へきて手伝うことになりました。

○…右上の写真は、わが家で光臣をあやんで千春とその母のごきげんぶりで、これからは不在勝ちの千春にかわって光臣が人気の中心になるかもしれません。

足寄新名所！
楽しい銘石湯でおつくろぎ下さい
小宴会、大宴会、各祝賀会に
グリーンパーク
ドライブイン・大駐車場完備！
足寄町里見ガ丘公園　☎五―三一七五
松山千春ファンの方々へ
特別サービス　一泊二食付三千円から
※予約の方は車で送迎いたします